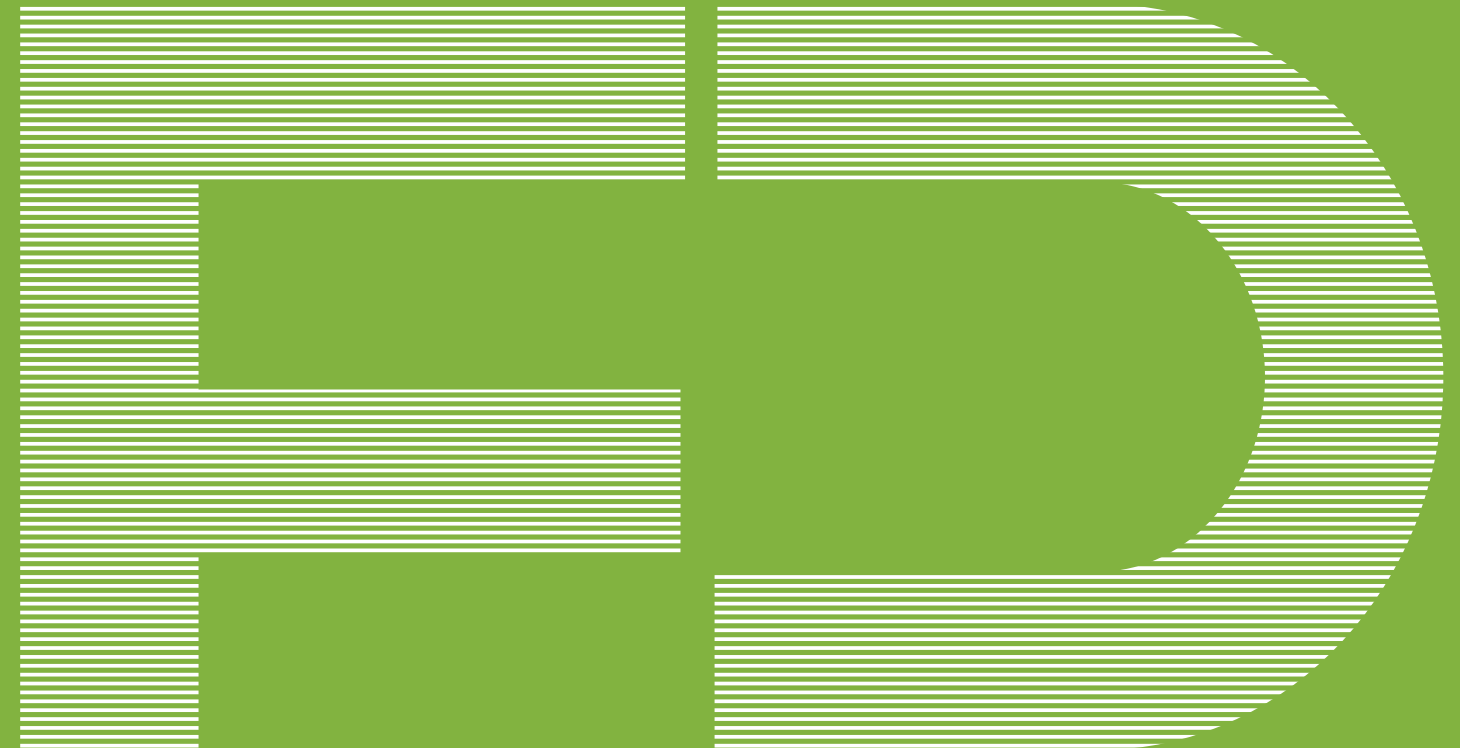


大阪大学教員のための

ファカルティ・ディベロップメント プログラムガイド

OSAKA UNIVERSITY FACULTY DEVELOPMENT PROGRAM GUIDE



お問い合わせ先

各FDプログラムの詳細については、
開催部局にお問い合わせください。



発行元

大阪大学 全学教育推進機構 教育学習支援部

〒560-0043 豊中市待兼山町1-16 豊中キャンパス
全学教育総合棟Ⅱ4階417

tlsc@celas.osaka-u.ac.jp



2017年度

10月～3月

大阪大学ファカルティ・ディベロップメント研修プログラム

大阪大学はこれまでFD（ファカルティ・ディベロップメント）に取り組んできました。本年10月より全学で開催されるFDプログラムを1冊のガイドにまとめました。プログラムは、教員として必要な ①教育能力、②研究能力、③社学連携能力、④マネジメント能力の4つのカテゴリーに分けて整理されています。伸ばしたい能力にあわせてプログラムガイドをご活用ください。

教育能力 開発プログラム

教育技法や教材作成方法、評価方法、学内の授業支援システム（CLE）の操作方法、多様な学生への理解など、阪大生の学習を促すための授業設計に関するプログラムです。

マネジメント能力 開発プログラム

薬品や廃液の取扱など安全衛生に関わる内容や、各種コンプライアンスに関わる内容など、組織の管理運営能力の開発を目指すプログラムです。



研究能力 開発プログラム

学術情報の迅速かつ効率的な収集方法や発信方法、厳守すべき研究倫理など、研究を行う上で必要な能力開発を目指すプログラムです。

社学連携能力 開発プログラム

緒方洪庵が開いた適塾や大阪大学の歴史など本学への理解を深めるプログラムや、実社会と連携した教育や研究の進め方についてのプログラムです。

大阪大学全学FDプログラム受講証明（FDポイント）制度

大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部（旧：教育学習支援センター）では、2014年度から全学FDプログラムの受講証明制度を実施しています。受講者は大阪大学CLEにおいて受講時間数（FDポイント）と、受講した時間数によって色が変わるFDバッジを確認することができます。また、教育学習支援部では、受講者の申し出に応じて、30時間ごとに修了証明書を発行します（上限120時間）。

受講証明書（FDバッジ）の確認方法



1. CLEに阪大IDでログインする。
2. コミュニティから「教育学習支援コモンズ（TLSC）FD」をクリックする。
3. 左側の「FDバッジの確認」をクリックする。

受講証明書（FDバッジ）の種類



大阪大学教員の皆様へ

近年、大学はさまざまな「改革」を社会から求められています。中でもとりわけ重要なことは、高等教育機関としての大学が優れた人材を育成し、社会に貢献していくことです。そのためには、教育を担う立場にある教員に高い教育・研究能力を備えることが必要だと思えます。

本学は今秋（10月）以降、新たに採用された教員に対して、教育や研究に関する30時間の研修プログラムの受講を必須化することにしました。この取り組みによって、大学の社会に対する説明責任を果たすと共に、本学の各教員に、教員として必要となる能力を身につける権利を保障するものです。

もとより本プログラムガイドに掲載されているセミナーや研修自体は、新任教員だけではなく、全教員を対象として設計されています。本学の教育、研究、社学連携、マネジメントの全ての領域で高いパフォーマンスを実現するため、できるだけ多くの教員のみなさまにご参加いただきたいと思います。

新任教員の皆様へ

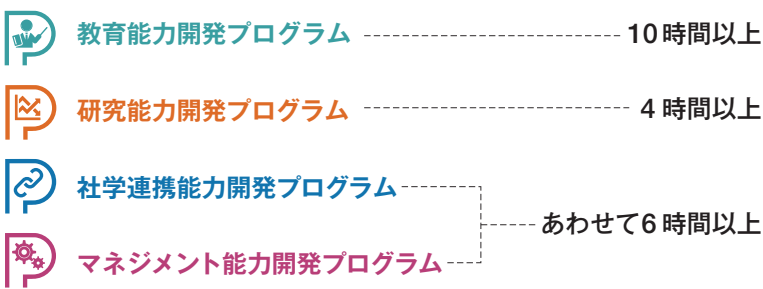
本学では、従来から教育指導・学習支援・学生支援能力の向上を図り、質の高い教育・学生支援活動の維持を目的として、FD（ファカルティ・ディベロップメント）に積極的に取り組んでいます。本学の教育、研究、社学連携、学内運営の取組をさらに向上させるため、新規採用する教員に対して本学の教員として身に付けておくべき基本的な知識やスキルを習得する機会を提供することを目的に、新任教員研修を必須化します。具体的には、全学及び各部署が実施する各種教員向け研修について、新規採用される講師・助教等を対象に、採用後3年間で30時間の研修受講を必須化することにより、教育、研究、社学連携及びマネジメント能力の習得を図ります。



理事・副学長（教育担当）
小林 博司

研修プログラム受講必須時間数

新任教員の皆さんは以下の通り各プログラムを受講してください。



研修プログラム一覧（平成29年度秋～冬学期（H.29.10～H30.3）開催分）

カテゴリ	掲載ページ	開催部局のみ対象	研修テーマ／タイトル	場所	日時	募集定員	時間数	使用言語	開催部局
10月									
教育	P.6		キャリア教育	豊中	10月2日 16:30-18:00	30名	1.5	日本語	全学教育推進機構
教育	P.6		アクティブ・ラーニング	豊中	10月2日 18:10-19:40	30名	1.5	日本語	全学教育推進機構
教育	P.6		初年次学生対象ライティング指導のコツ	豊中	10月4日 14:40-16:10	30名	1.5	日本語	全学教育推進機構
マネジメント	P.18	○	工学研究科 コンプライアンス教育講習会	吹田	10月4日 15:00-16:00	100名	1	日本語／英語	工学研究科
研究	P.15		Mathematica 講習会	豊中	10月6日 13:00-17:00	30名	4	日本語	サイバーメディアセンター
教育	P.6		グループ学習	豊中	10月19日 14:40-16:40	30名	2	日本語	全学教育推進機構
教育	P.7		edX edgeを使った 学内向けオンライン教材作成法	豊中	10月25日 14:40-16:40	30名	2	日本語	全学教育推進機構
教育	P.8		文化の多様性を理解し留学生・外国にルーツをもつ学生が学びやすい教育環境を整備するには	吹田	10月26日 16:00-17:00	50名	1	日本語	人間科学研究科
教育	P.7		edX edgeを使った 学内向けオンライン教材作成法	吹田	10月26日 16:20-18:20	30名	2	日本語	全学教育推進機構
マネジメント	P.18	○	産業科学研究所 教職員人材育成「英語講座」（初級）	吹田	10月～11月 12:00-13:00	10名	1× 受講回数	英語	産業科学研究所
マネジメント	P.18	○	産業科学研究所 教職員人材育成「英語講座」（中級）	吹田	10月～12月 17:30-19:00	10名	1.5× 受講回数	英語	産業科学研究所
11月									
教育	P.7	○	情報科学研究科 FD・SD 研修「アクティブ・ラーニングを情報系講義科目に取り入れることは可能か？」	吹田	11月2日 14:40-17:00	未定	2.33	日本語	情報科学研究科
教育	P.8		相互授業参観プログラム	豊中	11月2日 16:20-17:50 他	8名	10	日本語	全学教育推進機構
教育	P.9		高度教養教育の最前線	豊中	11月8日	40名	2	英語	全学教育推進機構
研究	P.15	○	文学研究科 研究教育フォーラム	豊中	11月9日 15:30-17:30	100名	2	日本語	文学研究科
教育	P.6		キャリア教育	吹田	11月9日 18:00-19:30	30名	1.5	日本語	全学教育推進機構
教育	P.6		アクティブ・ラーニング	吹田	11月13日 18:00-19:30	30名	1.5	日本語	全学教育推進機構
マネジメント	P.18	○	言語文化研究科 ハラスメント防止研修会	豊中	11月16日 14:40-15:40	未設定	1	日本語	言語文化研究科
教育	P.8		講義資料の作成と活用	豊中	11月22日 16:20-18:20	30名	2	日本語	全学教育推進機構
教育	P.8		シラバス作成法	吹田	11月27日 14:40-16:40	30名	2	日本語	全学教育推進機構
教育	P.9		講義収録システム活用法	豊中	11月29日 16:20-17:50	20名	1.5	日本語	全学教育推進機構
教育	P.8		シラバス作成法	豊中	11月30日 14:40-16:40	30名	2	日本語	全学教育推進機構
マネジメント	P.18		非化学系のための化学薬品取扱講習	未定	11月中旬	50名	1	日本語	安全衛生管理部
マネジメント	P.19		大阪大学薬品管理支援システム（OCCS Ⅲ）の利用について	未定	11月中旬	50名	1	日本語	安全衛生管理部
マネジメント	P.19		実験系廃液・排水の取扱い	未定	11月中旬	50名	1	日本語	安全衛生管理部
マネジメント	P.19		高圧ガス・液体寒剤に関する安全講習	未定	11月中旬	50名	1.5	日本語	安全衛生管理部
教育	P.9		HAO（Handai Admission Officer）育成プログラム第二回	千里阪急ホテル	11月30日～ 12月1日	40名	12	日本語／英語	高等教育・入試研究開発センター
12月									
教育	P.9		大学入試と教育の一体的な改革を共に考える～米国の高等教育研究者からの示唆～	千里阪急ホテル	12月1日	60名	3	英語	高等教育・入試研究開発センター
教育	P.10		講義法	吹田	12月6日 13:00-15:00	30名	2	日本語	全学教育推進機構
教育	P.10		学習評価	吹田	12月6日 15:15-17:15	30名	2	日本語	全学教育推進機構
社会学連携	P.16		大阪大学の歴史	豊中	12月6日 15:30-17:00	40名	1.5	日本語	アーカイブズ

カテゴリ	掲載ページ	開催部局のみ対象	研修テーマ／タイトル	場所	日時	募集定員	時間数	使用言語	開催部局
12月									
教育	P.10		ループリック評価	豊中	12月7日 16:20-18:20	30名	2	日本語	全学教育推進機構
教育	P.8		講義資料の作成と活用	吹田	12月12日 16:20-18:20	30名	2	日本語	全学教育推進機構
教育	P.10		講義法	豊中	12月13日 13:00-15:00	30名	2	日本語	全学教育推進機構
教育	P.10		学習評価	豊中	12月13日 15:15-17:15	30名	2	日本語	全学教育推進機構
教育	P.10		ループリック評価	吹田	12月14日 16:20-18:20	30名	2	日本語	全学教育推進機構
教育	P.11		データで見る阪大生の学び	吹田	12月15日 14:00-16:00	20名	2	日本語	高等教育・入試研究開発センター
マネジメント	P.18	○	工学研究科 コンプライアンス教育講習会	吹田	12月18日 13:00-14:00	100名	1	日本語／英語	工学研究科
教育	P.11		コミュニケーション教育導入法	豊中	12月18日 15:30-17:30	30名	2	日本語	全学教育推進機構
教育	P.12		授業支援システム（CLE）入門講座	未定	12月中／3月中	30名	1.5	日本語	サイバーメディアセンター他
教育	P.12		授業支援システム（CLE）応用講座	未定	12月中／3月中	30名	1.5	日本語	サイバーメディアセンター他
教育	P.12		Echo ALP を用いた講義映像・講義資料配信とその応用	未定	12月中／3月中	30名	1.5	日本語	サイバーメディアセンター他
1月									
社会学連携	P.16		学際研究の潮流と多様なアクター間の連携	豊中	1月16日 13:00-14:30	20名	1.5	日本語	CO デザインセンター
社会学連携	P.16		社会学連携の取組のあり方について	豊中	1月16日 14:40-16:10	20名	1.5	日本語	CO デザインセンター
教育	P.9		講義収録システム活用法	吹田	1月16日 16:20-17:50	20名	1.5	日本語	全学教育推進機構
マネジメント	P.19		人権問題委員会（仮）民族問題に関する講演	豊中	1月29日 14:00-16:00（予定）	100名	2	日本語	人権問題委員会
教育	P.11	○	文学研究科 ハラスメント防止研修会	豊中	1月中	100名	1.5	日本語	文学研究科
2月									
教育	P.6		グループ学習	吹田	2月1日 14:40-16:40	30名	2	日本語	全学教育推進機構
教育	P.11		コースデザインワークショップ	豊中	2月6日～7日 各日 10:00-18:00	30名	20（事前学習含）	日本語	全学教育推進機構
マネジメント	P.19	○	産業科学研究所 ハラスメント防止に関する講演会	吹田	2月下旬 14:00-15:30	50名	1.5	日本語	産業科学研究所
3月									
研究	P.15	○	産業科学研究所 研究倫理教育及び研究費不正使用防止に関する説明会	吹田	3月上旬 13:15-14:45	130名	1.5	日本語	産業科学研究所
教育	P.11		データで見る阪大生の学び	豊中	3月上旬	20名	2	日本語	高等教育・入試研究開発センター
社会学連携	P.17	○	産業科学研究所 プレスリリース講習会	吹田	3月中 10:30-12:30	40名	2	日本語	産業科学研究所
社会学連携	P.17		新任教員向け適塾見学会～阪大の歴史を辿る～	適塾・中之島センター	3月中 13:00-16:00	25名	3	日本語	適塾記念センター
教育	P.12		情報教育システム教員向け説明会	豊中／吹田	3月中 時間未定	30名	1.5	日本語	サイバーメディアセンター
定期／不定期									
教育	P.13		iPad Café	豊中	原則として毎月 第4木曜日 15:00-16:30	30名	1.5	日本語	全学教育推進機構
教育	P.14		授業コンサルティングサービス	豊中／吹田	随時	未設定	1×1-3回	日本語	全学教育推進機構
未定									
社会学連携	P.16		適塾から受け継ぐレガシー - 歴史・精神・文化財 -	吹田	1月～3月頃 14:00-16:30	40名	2.5	日本語	適塾記念センター
教育	P.13		高等司法研究科 授業見学会	豊中	未定	未設定	1.5	日本語	高等司法研究科
教育	P.13		高等司法研究科 モデル授業及び意見交換会	豊中	未定	未設定	3	日本語	高等司法研究科
教育	P.13		関西大学法科大学院公開授業	関西大学	未定	未設定	1.5	日本語	高等司法研究科
研究	P.15		研究・教育の推進に資する図書館の利活用	未定	未定	20名	1.5	日本語	附属図書館

※掲載内容は9月15日時点の情報です。最新情報は各開催部局にお問い合わせいただくか、学内ポータルサイト「マイハンダイ」（FD 関係）にてご確認ください。





教育能力開発 プログラム

教育技法や教材作成方法、評価方法、学内の授業支援システム(CLE)の操作方法、多様な学生への理解など、阪大生の学習を促すための授業設計に関するプログラムです。

■受講にあたり、特別な配慮が必要な場合、開催2週間前までにご連絡ください。
■本プログラムへの参加は「大阪大学FDポイント」に反映されます。ご自身のFDポイントはCLE上で確認できます。(FDポイントの確認方法はP2をご参照ください)

キャリア教育

講師：家島明彦（全学教育推進機構 教育学習支援部 講師）



豊中 10月2日(月) 16:30～18:00
吹田 11月9日(木) 18:00～19:30

〈キーワード〉キャリア教育、学生の受講態度と学習意欲

〈概要〉

大学におけるキャリア教育の導入背景を学び、学生の受講態度と学習意欲を向上させるための工夫を修得します。レクチャーとワークを交えながら、「キャリアとは何か」、「なぜ大学教育においてキャリア教育が必要・重要と言われるようになったのか」、「キャリア教育の要素を授業に導入するためには具体的にどうすればいいのか」といった疑問にお答えします。
(問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部 <http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/>)

アクティブ・ラーニング

講師：家島明彦（全学教育推進機構 教育学習支援部 講師）
山口和也（全学教育推進機構 教育学習支援部 教授）



豊中 10月2日(月) 18:10～19:40
吹田 11月13日(月) 18:00～19:30

〈キーワード〉アクティブ・ラーニング、教育技法

〈概要〉

アクティブ・ラーニングとは、学生の学習意欲の向上や汎用的能力の育成に有効な教授・学習法の総称です。本研修では、大学におけるアクティブ・ラーニングの導入背景や、授業にアクティブ・ラーニングを取り入れる方法を説明します。また、学生の主体的な学習活動を促す様々な教育技法を組み合わせアクティブ・ラーニング型授業をデザインするワークを行います。
(問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部 <http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/>)

初年次学生対象ライティング指導のコツ

講師：山口和也（全学教育推進機構 教育学習支援部 教授）



豊中 10月4日(水) 14:40～16:10

〈キーワード〉初年次教育、アカデミックライティング、レポート課題

〈概要〉

レポートの書き方に不安を抱いている初年次学生に対して、どのようにライティングを指導するのかについて説明します。各専門分野の独自のライティングとは異なり、共通性の高い基本的スキルに焦点を絞っています。本セミナーでは、ライティングの授業の実践事例と指導ポイントの紹介をし、ライティングを含んだ授業のデザインを試みていただきます。
(問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部 <http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/>)

グループ学習

講師：大山牧子（全学教育推進機構 教育学習支援部 助教）



豊中 10月19日(木) 14:40～16:40
吹田 2月1日(木) 14:40～16:40

〈キーワード〉グループ学習、授業デザイン、教育技法

〈概要〉

アクティブ・ラーニング型の授業が注目されています。アクティブ・ラーニング型の授業で多く導入されるグループ学習には、様々な種類がありますが、学生の深い学びをもたらすためには、目的に応じた方法を導入することが重要です。自らの授業の中でどのようにとりいれて良いのかお困りではないですか？本セミナーでは、大学の授業の中で実施され得る様々な種類のグループ学習と、その特徴を説明すると共に、授業の中で目的に応じてどのように導入するかを考えます。
(問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部 <http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/>)

edXedgeを使った学内向けオンライン教材作成法

講師：権藤千恵（全学教育推進機構 教育学習支援部 特任研究員）



豊中 10月25日(水) 14:40～16:40
吹田 10月26日(木) 16:20～18:20

〈キーワード〉MOOCs/SPOCs、E-LEARNING教材、LMS、edX edge プラットフォーム

〈概要〉

edX に加盟している大阪大学では、edX edge を使った学内向けの SPOC (small private online courses) の教材作成が可能です。本講座では実際に edX edge プラットフォームを使いながら edX プラットフォームについて理解し、授業に edX edge プラットフォームを活用してもらうために必要な素材、基本機能、作成手法を紹介します。尚、講義は主に日本語で実施しますが、edX のプラットフォーム及びマニュアルは英語で提供されます。

*当日はノートパソコン(Windows もしくは Mac)をお持ち下さい。
*実際に edX edge でご自身の授業の教材作成を希望される場合は講義時にお知らせください。

(問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部 <http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/>)

文化の多様性を理解し留学生・外国にルーツをもつ 学生が学びやすい教育環境を整備するには

講師：金明秀（関西学院大学 社会学部 教授）



吹田 10月26日(木) 16:00～17:00

〈キーワード〉文化の多様性、レイシャル(人種的)ハラスメント、留学生、外国にルーツをもつ学生、教育環境

〈概要〉

留学生や外国にルーツをもつ学生が大学生活において直面する様々な課題について学びます。文化の多様性を理解し、レイシャルハラスメントや差別を防ぎ、望ましい配慮の基本を身に着けます。適切な教育環境の在り方についても研修します。

(問合先：人間科学研究科 庶務係 jinka-syomu@office.osaka-u.ac.jp)

情報科学研究科構成員のみ対象

情報科学研究科FD・SD研修「アクティブ・ラーニングを 情報系講義科目に取り入れることは可能か？」

講師：土屋達弘（情報科学研究科 教授）
増澤利光（情報科学研究科 教授）
望月直人（キャンパスライフ健康支援センター 准教授）
佐藤浩章（全学教育推進機構 教育学習支援部 准教授）



吹田 11月2日(木) 14:40～17:00

〈キーワード〉情報科学研究科の現状、発達障害、アクティブ・ラーニング

〈概要〉

研究科の概要(20分程度)、発達障害(40分程度)、アクティブ・ラーニング(1時間程度)を含み全体で2時間20分を予定しています。情報科学研究科の全教職員を対象とし、今後の教育やマネジメントに生かせる知識を得ることを目標にしています。

(問合先：情報科学研究科 庶務係 jyouhou-syomu@office.osaka-u.ac.jp)





教育能力開発 プログラム

相互授業参観プログラム

講師：根岸千悠（全学教育推進機構 教育学習支援部 特任助教）

豊中 11月2日（木）16:20～17:50、2月8日（木）16:20～17:50
及び11月3日（金）～2月7日（水）随時実施



〈キーワード〉相互観察、自己省察、学際的視点

〈概要〉

専門分野の異なる3～4名でチームを組み、お互いに授業参観及び振り返りを行います。プログラムは次の3つで構成されています。初回と最終回は集合研修となります。

- ・初回（11/2）：授業参観の意義の確認、チームメンバーの決定、今後の予定に関するミーティング
- ・中間（11/3～2/7間で随時）：チームメンバーの授業参観及び振り返り（2～3回）、他のチームメンバーへの授業公開及び振り返り
- ・最終回（2/8）：フォローアップ・リフレクション

*本プログラムは、St.Louis Community CollegeのAnne Wessely氏が最初に開発したTeaching Squaresをモデルとしており、現在多くの北米の大学やカレッジで実施されているものです。

（問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部 <http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/>）

講義資料の作成と活用

講師：浦田悠（全学教育推進機構 教育学習支援部 特任講師）

豊中 11月22日（水）16:20～18:20
吹田 12月12日（火）16:20～18:20



〈キーワード〉講義資料、スライド、配付資料

〈概要〉

日々の講義資料の作成は、教員にとって最も時間と手間がかかる業務の1つです。そのため、スライドを利用する授業では、既存のテンプレートをそのまま用いて、単調な箇条書きだけのスライドを作ってしまうがちかもしれません。また、ハンドアウト・レジュメについても、過不足のない分かりやすい資料を準備し、それを有効に活用することはなかなか難しいものです。そこで、本研修では、伝わる講義資料をどのように作成し、かつそれをどう活用するのかということについて、具体的なデザインの原則や効率化するためのティップスを紹介します。また、実際に普段の講義資料を共有し、よりよい講義資料へと改善するためのヒントも得ていただくことを目指します。

*当日は、パソコンもしくは印刷物で普段作成されているスライド資料、あるいは配付資料を1つ以上ご持参ください。グループワークと振り返りの材料となります。

（問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部 <http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/>）

シラバス作成法

講師：大山牧子（全学教育推進機構 教育学習支援部 助教）
佐藤浩章（全学教育推進機構 教育学習支援部 准教授）

豊中 11月30日（木）14:40～16:40
吹田 11月27日（月）14:40～16:40



〈キーワード〉シラバス、授業設計、目的、目標、スケジュール、評価

〈概要〉

シラバスは授業の設計図であり、授業の出発点です。そのシラバスの記載は十分に学生の学習を促すものになっているでしょうか。あるいは、国際社会で通用するものになっているでしょうか。外部評価においても、そして教員の個人業績評価においても、シラバスの重要性は高まっています。本セミナーでは、学生の自学自習を促すシラバス作成方法を身につけます。ぜひ新しいシラバスを使ってスタートしましょう。

*参加者はご自身のシラバス（どれか1つ）を持参ください。

（問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部 <http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/>）



Program

講義収録システム活用法

講師：浦西友樹（サイバーメディアセンター 准教授）
浦田悠（全学教育推進機構 教育学習支援部 特任講師）



豊中 11月29日（水）16:20～17:50
吹田 1月16日（火）16:20～17:50

〈キーワード〉ICT 活用教育、アクティブ・ラーニング

〈概要〉

echo360社のアクティブ・ラーニングプラットフォーム（ALP）を用いれば、お手持ちのパソコンで手軽にビデオ教材を作成・配信することができ、予習や復習、補講のみならず、部局や研究室でのオンライン講習等にもご利用いただけます。また、ウェブカメラを使えば、パソコン画面と教員の顔や教室の映像の2画面を同時に収録することも可能です。本セミナーでは、ご自身のノートパソコンで実際に映像教材をつくりながら、授業での活用方法をご検討いただきます。

*当日はノートパソコン（WindowsもしくはMac）をお持ち下さい。USBカメラは幾つか準備しておりますが、数が足りない場合はご容赦ください。
*授業での公開をご希望の方は、参加申込みフォームの備考欄に「授業名」をお書き下さい。

（問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部 <http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/>）

高度教養教育の最前線

講師：スーザン・アルバーティン（高等教育・入試研究開発センター 特任教授）

豊中 11月8日（水）時間未定



〈キーワード〉高度教養教育、高年次学部学生、大学院生、高度汎用力の育成、学習成果

〈概要〉

米国AAC&U副理事を務めるアルバーティン先生から、2000年以降の米国の教養教育、特に高年次・大学院学生のための高度教養教育の状況と事例を講義していただくとともに、大阪大学で展開する高度教養教育の状況をご紹介します。後半ではフロアを交えて高年次・大学院学生にとって必要な教養教育の要素や期待される学習成果、卒業後の展開について議論します。

（問合先：全学教育推進機構事務部横断教育係 zenkyo-odankyoiku@office.osaka-u.ac.jp）

HAO (Handai Admission Officer) 育成プログラム第二回

講師：川嶋太津夫（高等教育・入試研究開発センター 教授・センター長）
スーザン・アルバーティン（高等教育・入試研究開発センター 特任教授）
和嶋雄一郎（高等教育・入試研究開発センター 准教授）
石倉佑季子（高等教育・入試研究開発センター 特任講師）他

千里阪急ホテル 11月30日（木）及び12月1日（金）



〈キーワード〉大学入試改革、高大接続改革、大学教育改革、多面的・総合的入試、評価方法

〈概要〉

大学入試や教育の現状を見つめ直し、課題を発見し、解決方法を見出す機会となるように構成されたプログラムです。高等学校や大学の現場で現在どのような改革が行われているのかを、入試改革のアンクルから見つめ直すことを目指します。

（問合先：高等教育・入試研究開発センター contact@chega.osaka-u.ac.jp）

大学入試と教育の一体的な改革を共に考える ～米国の高等教育研究者からの示唆～

講師：スーザン・アルバーティン（高等教育・入試研究開発センター 特任教授）

千里阪急ホテル 12月1日（金）時間未定



〈キーワード〉大学入試改革、大学教育改革

〈概要〉

入試改革により大学生が多様化している中、大学教育が今後どのように変わって行くべきなのか、大学入試と教育をどのように一体的に改革すべきなのかを、米国AAC&U副理事を務めるアルバーティン先生と共に考えます。

（問合先：高等教育・入試研究開発センター contact@chega.osaka-u.ac.jp）

※掲載内容は9月15日時点の情報です。最新情報は各開催部局にお問い合わせいただくか、学内ポータルサイト「マイハンダイ」（FD関係）にてご確認ください。

Program

講義法

講師：佐藤浩章（全学教育推進機構 教育学習支援部 准教授）

豊中 12月13日(水) 13:00～15:00
吹田 12月6日(水) 13:00～15:00



〈キーワード〉講義法、情報伝達、理解、記憶

〈概要〉

アクティブ・ラーニングの必要性が叫ばれる時代ですが、中世ヨーロッパに大学が誕生して以来、講義法はなくな
っていませんし、これからもなくなることはないでしょう。人前に立って知識を伝達する技法である講義法において大
切なことは、学生が知識を理解し記憶するというメカニズムを理解することです。本プログラムではその理解をもとに、
効果的な技法を習得することを目指します。

（問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部 <http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/>）

学習評価

講師：佐藤浩章（全学教育推進機構 教育学習支援部 准教授）
根岸千悠（全学教育推進機構 教育学習支援部 特任助教）



豊中 12月13日(水) 15:15～17:15
吹田 12月6日(水) 15:15～17:15

〈キーワード〉形成的評価、総括的评价、絶対評価、相対評価、
客観評価、主観評価、直接評価、間接評価

〈概要〉

適切な学習評価は、学生の学習時間や学習方法を変えられる可能性があります。本セミナーでは、学習評価の原則や
公平性を説明し、学習評価の厳密化と効率化のためのツール、さまざまな評価方法、コピー＆ペーストを防ぐ方法に
ついて紹介します。ペアワークやディスカッションを通じて、改めてご自身の学習評価方法を見直していただき、公
平性、厳密性、効率性を満たす評価方法を考えていきます。

（問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部 <http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/>）

ルーブリック評価

講師：浦田悠（全学教育推進機構 教育学習支援部 特任講師）
佐藤浩章（全学教育推進機構 教育学習支援部 准教授）



豊中 12月7日(木) 16:20～18:20
吹田 12月14日(木) 16:20～18:20

〈キーワード〉ルーブリック、パフォーマンス評価

〈概要〉

1枚目のレポートの採点基準と50枚目のそれがずれていると気になったことはありませんか？評価にかかる時間をも
っと短縮できたらと思ったことはありませんか？ルーブリックがそんな悩みを解決してくれます。ルーブリックと
は、教育・学習成果の評価の厳密化と効率化を進めるために使われる評価ツールです。本セミナーではルーブリック
の作成手続きと様々な事例を紹介しながら、研修時間内に自らの授業で活用できるルーブリックを作成します。成績
評価の厳密化と効率化を進めたい教員だけではなく、カリキュラム・プログラム評価に関心のある教職員、人事評価に
関心のある教職員の方にも有用な内容です。

*参加者は事前に送付されるファイルを取り込んだパソコンを持参ください。持参できない場合はパソコンを使わずに紙で作業もできます。

（問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部 <http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/>）

コミュニケーション教育導入法

講師：蓮行（国際教育交流センター 非常勤講師）



豊中 12月18日(月) 15:30～17:30

〈キーワード〉コミュニケーション、演劇的手法、ワークショップ、授業開き

〈概要〉

講義におけるアイスブレイクの手法を学びます。性別や属性、専門性の違う受講者同士が、いかに短時間でそれらの「差
異」を超えて合意形成するのかというプロセスを、ゲームを通じて体験しながら、ワークショップ型・合意形成型の
講義の導入で用いる、コミュニケーションゲームを紹介します。

（問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部 <http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/>）

データで見る阪大生の学び

講師：和嶋雄一郎（高等教育・入試研究開発センター 准教授）
安部有紀子（全学教育推進機構 准教授）



吹田 12月15日(金) 14:00～16:00〈予定〉
豊中 3月上旬 時間未定

〈キーワード〉学生調査、阪大生、学習成果、学習経験、海外大学との比較

〈概要〉

過去3年間実施してきた全学的な学生調査の最新データを、米国やアジアの研究大学の学生達と比較しながら、「阪大生の
学びと成長」について明らかにしていきます。ご自分の中の「阪大生」のイメージを再考する機会としてご活用ください。
*インターネットに接続可能なパソコンをご持参ください。

（問合先：高等教育・入試研究開発センター contact@chega.osaka-u.ac.jp）

文学研究科構成員のみ対象

文学研究科 ハラスメント防止研修会

講師：未定



豊中 1月中 時間未定

〈キーワード〉ハラスメント防止、セクシャル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、モラル・ハラスメント、
パワー・ハラスメント、ネットいじめ

〈概要〉

ハラスメントの概要と事例について、パワーポイントなどの視覚資料に基づいて解説します。質疑応答を通じて理解
を深め、ハラスメントを発生させないための心構えを固めます。

（問合先：文学研究科 庶務係 bunsouhaku-syomu@office.osaka-u.ac.jp）

コースデザインワークショップ

講師：佐藤浩章（全学教育推進機構 教育学習支援部 准教授）
増澤利光（全学教育推進機構 教育学習支援部 教授）
浦田悠（全学教育推進機構 教育学習支援部 特任講師）
根岸千悠（全学教育推進機構 教育学習支援部 特任助教）他



豊中 2月6日(火) 10:00～18:00及び2月7日(水) 10:00～18:00

〈キーワード〉コースデザイン、学習者中心、シラバス、クラスデザイン、マイクロティーチング

〈概要〉

コースデザインとは、教員がコース（授業科目）を目的・目標に基づいて具体的に設計することです。ワークショップ
では、2日間で学生中心の授業のデザイン方法を学んだうえで、ご自身のシラバスや授業のブラッシュアップを行
います。また同じ悩みを抱えた他の教員とアイデアを共有することで、今後の授業の質の向上を目指します。

*パソコン及び改善したいシラバスをご持参ください。

*全課程修了後に修了証が授与されます。通し研修となりますので、途中からの参加・退出はできません。

*シラバスに関する動画を事前に視聴していただきます。また1日目にシラバスのブラッシュアップ等の課題があります。これらの課題は研修
時間に含まれています。

（問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部 <http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/>）

※掲載内容は9月15日時点の情
報です。最新情報は各開催部局に
お問い合わせいただくか、学内
ポータルサイト「マイハンダイ」
(FD関係)にてご確認ください。



教育能力開発
プログラム

情報教育システム教員向け説明会

講師：間下以大（サイバーメディアセンター 准教授）

豊中 3月中 時間未定
吹田 3月中 時間未定



〈キーワード〉情報教育システム

〈概要〉

情報教育システム、CLE、OUMail 等の紹介と利用方法の説明を行います。また教員卓の AV パネル等の利用方法の説明を行います。

（問合先：サイバーメディアセンター 情報メディア教育研究部門 ecs-request@ecs.osaka-u.ac.jp）

授業支援システム(CLE)入門講座

講師：竹村治雄（サイバーメディアセンター 教授）他



未定 12月中 時間未定
未定 3月中 時間未定

〈キーワード〉授業支援システム、LMS、教育学習支援情報システム、教育情報化

〈概要〉

授業支援システムを実際に操作しながら、その機能について学びます。特に、授業支援システムを用いて、教材配布、レポート提出、アンケートや小テストの作成ができるようになることを目指します。

（問合先：サイバーメディアセンター 情報メディア教育研究部門 ecs-request@ecs.osaka-u.ac.jp）

授業支援システム(CLE)応用講座

講師：竹村治雄（サイバーメディアセンター 教授）他



未定 12月中 時間未定
未定 3月中 時間未定

〈キーワード〉授業支援システム、LMS、教育学習支援情報システム、教育情報化

〈概要〉

授業支援システムを実際に操作しながら、その機能について学びます。特に、授業支援システムを用いて、グループ学習、ディスカッションボード、e-portfolio、ルーブリックなどの機能を習得することを目指します。

（問合先：サイバーメディアセンター 情報メディア教育研究部門 ecs-request@ecs.osaka-u.ac.jp）

Echo ALPを用いた講義映像・講義資料配信とその応用

講師：未定



未定 12月中 時間未定
未定 3月中 時間未定

〈キーワード〉授業支援システム、講義映像収録配信、アクティブ・ラーニング

〈概要〉

授業支援システムで Echo Active Learning Platform (Echo ALP) を用いて講義映像や講義資料を配信したり、アクティブラーニング機能を使ったりして、学生の自律的な学習を支援できるようになることを目指します。当日は、Echo ALP を実際に操作しながら、その機能について学びます。

（問合先：サイバーメディアセンター 情報メディア教育研究部門 ecs-request@ecs.osaka-u.ac.jp）

高等司法研究科 授業見学会

講師：表彰教員（高等司法研究科）



豊中 時間未定

〈キーワード〉説明、指示、板書、配付資料、教室マネジメント

〈概要〉

高等司法研究科 FD 教育企画委員会選定の授業に参加し、授業の進め方、教授方法、配布資料等を実際に見学・見聞することにより、各自の授業を改善する手がかりを得ます。

（問合先：高等司法研究科教務係 hokou-kousikyomu@office.osaka-u.ac.jp）

高等司法研究科 モデル授業及び意見交換会

講師：外部講師〈予定〉



豊中 時間未定

〈キーワード〉説明、指示、板書、配付資料、教室マネジメント

〈概要〉

高等司法研究科 FD 教育企画委員会が招いた他大学の法科大学院の講師の授業に参加し、授業の進め方、教授方法、配布資料等を実際に見学・見聞し、その直後に当該講師と意見交換を行い、授業の技法を修得します。

（問合先：高等司法研究科教務係 hokou-kousikyomu@office.osaka-u.ac.jp）

関西大学法科大学院公開授業

講師：関西大学法科大学院教員



関西大学 時間未定

〈キーワード〉説明、指示、板書、配付資料、教室マネジメント

〈概要〉

関西大学法科大学院教務委員会選定の授業に参加し、授業の進め方、教授方法、配布資料等を実際に見学・見聞することにより、各自の授業を改善する手がかりを得ます。

（問合先：高等司法研究科教務係 hokou-kousikyomu@office.osaka-u.ac.jp）

iPad Café

講師：岩居弘樹（全学教育推進機構 教育学習支援部 教授）



豊中 原則として毎月第 4 木曜日 15:00-16:30

〈キーワード〉mobile apps and devices, interactive classroom, collaborative learning

〈概要〉

携帯端末・タブレット端末を活用して、学生同士・学生と教員のインタラクティブな授業を実現してみませんか。iPad Cafe は、iPad の活用方法、HALC（Handai Active leraning Classroom：iPad 教室）の使い方、アプリ紹介やトラブル対応の方法など、自由に語り合う場です。どなたでも参加いただけます。HALC 以外の教室でも iPad を使ってみたい、学生のモバイル端末を活用したいという方も歓迎です。

（問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部 http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/）



Program

※掲載内容は 9 月 15 日時点の情報です。最新情報は各開催部局にお問い合わせいただくか、学内ポータルサイト「マイハンダイ」（FD 関係）にてご確認ください。

Program



教育能力開発
プログラム

授業コンサルティングサービス

講師：全学教育推進機構教育学習支援部教員

■豊中 随時
■吹田 随時

〈キーワード〉授業デザインのプロセス、学生の学習、教育内容、学習成果、教授法、学習評価

〈概要〉

授業デザインやシラバス、教授法、評価などに関する様々なご相談を承っております。お気軽にご連絡ください。

【ご相談例】

- 自分の授業に対して学生はどう思っているのだろうか？→授業の教室に入り、学生から授業に対するコメントを聞き取ります。授業終了後に、コメントをもとに改善策を練るご支援をいたします。
- タブレット端末やスマートフォンを活用した授業をしたい→ICT機器（タブレット端末、携帯端末等）の操作や設置の方法、授業での活用の仕方などのご提案をいたします。
- 英語での講義を担当することになったが、不安である→英語で教えるための方法やテクニック等についての情報提供やお手伝いを行います。
- 研究室をうまくマネジメントできない→研究室でのルールづくり、一年間の行事の設定など、プロジェクトマネジメントの手法を取り入れた研究室運営に関する情報提供や研究室教育に関するご支援をいたします。

（問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部 <http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/>）



研究能力開発 プログラム

学術情報の迅速かつ効率的な収集方法や発信方法、厳守すべき研究倫理など、研究を行う上で必要な能力開発を目指すプログラムです。

- 受講にあたり、特別な配慮が必要な場合、開催2週間前までにご連絡ください。
- 本プログラムへの参加は「大阪大学FDポイント」に反映されます。ご自身のFDポイントはCLE上で確認できます。（FDポイントの確認方法はP2をご参照ください）

Mathematica 講習会

講師：勝明次郎（ヒューリンクス）〈予定〉

■豊中 10月6日（金）13:00～17:00

〈キーワード〉Mathematica、ハンズオンセミナー

〈概要〉

数式処理ソフトである Mathematica を研究や教育で活用できるようになるために、文法の基礎、数値行列の処理、方程式の解法、微分方程式を解く（グラフ化）、データのグラフ化、アニメーション（Manipulate）、Get（<<）/ Put（>>）、Import / Export、Excel ファイルの扱いを学びます。

（問合先：サイバーメディアセンター 情報メディア教育研究部門 ecs-request@ecs.osaka-u.ac.jp）

文学研究科構成員のみ対象

文学研究科 研究教育フォーラム

講師：後藤昭雄（文学研究科 名誉教授）
輪島裕介（文学研究科 准教授）

■豊中 11月9日（木）15:30～17:30

〈キーワード〉研究、教育

〈概要〉

本研究科教員の研究遂行能力を開発するとともに、研究成果を教育の場に効果的に活かすための方法を開発することを目的に、本研究科の名誉教授および本研究科教員の2名がそれぞれの専門分野に関する研究発表を行い、それについて参加者全員で討議を行います。

（問合先：文学研究科 庶務係 bunsouhaku-syomu@office.osaka-u.ac.jp）



研究・教育の推進に資する図書館の利活用

講師：図書館職員

■未定 未定

〈キーワード〉資料の入手、情報サービス、図書館施設、図書館職員の支援、アクティブ・ラーニング、オープンアクセス

〈概要〉

研究及び教育を遂行していくにあたり必須である学術情報の迅速かつ効率的な入手方法を修得するとともに、附属図書館の有効な活用方法の理解を深めることで、大阪大学における研究・教育の質の向上に資することを目的としています。附属図書館が提供する情報サービス、図書館施設の利用方法等について、研究推進の観点、教育実施の観点から具体的事例を基に学びます。

（問合先：附属図書館 企画係 kikaku@library.osaka-u.ac.jp）



産業科学研究所構成員のみ対象

産業科学研究所 研究倫理教育及び研究費不正使用防止に関する説明会

講師：中谷和彦（産業科学研究所長）
沼尾正行（研究倫理委員会委員長）

■吹田 3月上旬 13:15～14:45

〈キーワード〉研究倫理、研究費不正使用防止、コンプライアンス教育

〈概要〉

研究活動を行う上で厳守すべき研究倫理と、研究費の不正使用についての理解を深めます。当日は、研究所長及び研究倫理担当教授による講義および事務担当者から補足説明を行います。

（問合先：産業科学研究所 総務課総務係 sanken-soumu-soumu@office.osaka-u.ac.jp）



※掲載内容は9月15日時点の情報です。最新情報は各開催部局にお問い合わせいただくか、学内ポータルサイト「マイハンダイ」（FD関係）にてご確認ください。



Program

※掲載内容は9月15日時点の情報です。最新情報は各開催部局にお問い合わせいただくか、学内ポータルサイト「マイハンダイ」（FD関係）にてご確認ください。



Program



社会学連携 能力開発 プログラム

緒方洪庵が開いた適塾や
大阪大学の歴史など本学
への理解を深めるプログ
ラムや、実社会と連携した
教育や研究の進め方につ
いてのプログラムです。

- 受講にあたり、特別な配慮
が必要な場合、開催2週間前
までにご連絡ください。
- 本プログラムへの参加は
「大阪大学FDポイント」に反
映されます。ご自身のFDポイ
ントはCLE上で確認できます。
(FDポイントの確認方法はP2
をご参照ください)

 定員

 受講時間

 使用言語

大阪大学の歴史

講師：菅真城（アーカイブズ 教授）

豊中 12月6日（水）15:30～17:00

〈キーワード〉大阪大学、大阪帝国大学、大阪外国語大学

〈概要〉

前身諸学校を含む大阪大学の歴史について、重要トピックを取り上げ、時系列に学びます。また、歴史を明らかにするうえでの資料の重要性について学びます。

（問合先：総務部総務課 文書管理室 souki-soumu-bunsyo@office.osaka-u.ac.jp）

社会学連携の取組のあり方について

講師：辻田俊哉（CO デザインセンター 講師）

豊中 1月16日（火）14:40～16:10

〈キーワード〉学際的教育、プロジェクト型学習、産官民学連携、ソーシャルイノベーション

〈概要〉

社会的課題の発見・解決に向け、国外では様々な実践的かつ学際的な教育プログラムが展開されています。本研修では、近年の国外動向と本学における取り組みについて学び、本学における社会学連携のあり方について考えていきます。

（問合先：全学教育推進機構等事務部（CO デザインセンター総務担当））

学際研究の潮流と多様なアクター間の連携

講師：上須道徳（CO デザインセンター 特任准教授）

豊中 1月16日（火）13:00～14:30

〈キーワード〉学際研究、Academic field、共創

〈概要〉

基礎研究を含む既存の専門分野の概観、および学際研究の定義づけを行い、学際研究がなぜ生まれどのように発展してきたのかについて解説します。また近年、動きが活発になっている超学的アプローチ（Transdesiplinary research）について、事例を取り上げながらアクター間の連携の在り方について議論します。

（問合先：全学教育推進機構等事務部（CO デザインセンター総務担当））

適塾から受け継ぐレガシー ―歴史・精神・文化財―

講師：村田路人（文学研究科 教授）

島田昌一（医学系研究科 教授）

松永和浩（適塾記念センター 准教授）

吹田 1月～3月頃 14:00～16:30

〈キーワード〉適塾、適塾記念センター、適塾記念会、阪大の歴史、適塾顕彰活動、精神的源流、文化財

〈概要〉

緒方洪庵が開いた適塾・除痘館から大阪大学につながる歴史的事実を確認し、洪庵・適塾の教育・研究から阪大に連なる精神的源流を見出し、阪大・適塾記念会が文化財として適塾の遺産をどう守り伝えて来たかを説明します。

【プログラム】

■適塾から大阪大学へ 村田路人（文学研究科 教授）45分

■緒方洪庵・適塾の教育・研究 島田昌一（医学系研究科 教授）45分

■文化財としての適塾 松永和浩（適塾記念センター 准教授）45分

（問合先：企画部男女協働推進・社会学連携課 社会学連携係 ※申込は、マイ阪大の申込フォームからを予定）

 40名

 1.5時間

 日本語

 20名

 1.5時間

 日本語

 20名

 1.5時間

 日本語

 40名

 2.5時間

 日本語

産業科学研究所構成員のみ対象

産業科学研究所 プレスリリース講習会

講師：外部講師

吹田 3月中 10:30～12:30

〈キーワード〉プレスリリースの作成法

〈概要〉

新聞社の記者を外部講師として招き、記者の立場からわかりやすいプレスリリースの作成法をご講義いただきます。実例や簡単な例題をもとに、わかりやすいプレスリリースのポイントを学び、研究成果の発信に役立てます。

（問合先：産業科学研究所広報室 kouhou-staff@sanken.osaka-u.ac.jp）

新任教員向け適塾見学会～阪大の歴史を辿る～

講師：村田路人（文学研究科 教授）

松永和浩（適塾記念センター 准教授）

適塾、中之島センター 3月中 13:00～16:00

〈キーワード〉適塾、適塾見学会、映画、適塾記念センター、適塾記念会、適塾顕彰活動、精神的源流、文化財

〈概要〉

本学の教職員を対象として、『適塾と大阪大学の繋がり』に関する歴史的・精神認識や、適塾記念センター及び適塾記念会の顕彰事業の内容を紹介します。

【プログラム】

■新任教員向け適塾見学会～阪大の歴史を辿る～ 90分

■映画『洪庵と1,000人の若ものたち』鑑賞及び解説 75分

（問合先：企画部男女協働推進・社会学連携課 社会学連携係 ※申込は、マイ阪大の申込フォームからを予定）

 40名

 2時間

 日本語

 25名

 3時間

 日本語

※掲載内容は9月15日時点の情報です。最新情報は各開催部局にお問い合わせいただくか、学内ポータルサイト「マイハンダイ」（FD関係）にてご確認ください。



マネジメント 能力開発 プログラム

薬品や廃液の取扱など安全衛生に関わる内容や、各種コンプライアンスに関わる内容など、組織の管理運営能力の開発を目指すプログラムです。

■受講にあたり、特別な配慮が必要な場合、開催2週間前までにご連絡ください。

■本プログラムへの参加は「大阪大学FDポイント」に反映されます。ご自身のFDポイントはCLE上で確認できます。(FDポイントの確認方法はP2をご参照ください)

30名 定員
1.5時間 受講時間
日本語 使用言語

Program

工学研究科構成員のみ対象

工学研究科 コンプライアンス教育講習会

講師：青木伸一（工学研究科 教授）

吹田 第2回 10月4日(水) 15:00～16:00
吹田 第3回 12月18日(月) 13:00～14:00

〈キーワード〉コンプライアンス、公的研究費、不正使用防止

〈概要〉

公的研究費の不正使用防止を徹底することに加え、工学研究科におけるコンプライアンスの取組を理解することを目的としています。新任教員に対して50分程度の講義ののち、質問を受け付けます。

(問合先：工学研究科コンプライアンス推進室 kou-soumu-compliance@office.osaka-u.ac.jp)

100名 1時間 日本語 英語

産業科学研究所構成員のみ対象

産業科学研究所 教職員人材育成「英語講座」

講師：外部講師

吹田 ●初級 12:00～13:00 / 第4回 10月5日(木)、第5回 10月12日(木)、第6回 10月19日(木)、第7回 10月26日(木)、第8回 11月9日(木)、第9回 11月16日(木)、第10回 11月30日(木)
●中級 17:30～19:00 / 第1回 10月6日(金)、第2回 10月13日(金)、第3回 10月20日(金)、第4回 10月27日(金)、第5回 11月10日(金)、第6回 11月17日(金)、第7回 11月24日(金)、第8回 12月1日(金)、第9回 12月8日(金)、第10回 12月15日(金)

〈キーワード〉英語

〈概要〉

日常会話から学術的英語まで、目的に応じたレベルの英語力向上を目指します。本講座はネイティブ及び日本人講師による対面型実践講義です。

*基本的には、回ごとに講義が完結し、継続することはありません。そのため、単発でも参加が可能で、いつでも受講いただけます。

(問合先：産業科学研究所 企画室 isir-secretary@sanken.osaka-u.ac.jp)

10名 1～15時間 英語

言語文化研究科構成員のみ対象

言語文化研究科 ハラスメント防止研修会

講師：植木美恵子（ハラスメント相談室 専門職員）

豊中 11月16日(木) 14:40～15:40

〈キーワード〉ハラスメント防止

〈概要〉

ハラスメント防止に係る意識啓発を目的に、本学におけるハラスメントの状況と防止に向けた取組について講演を行います。

(問合先：言語文化研究科・外国語学部豊中事務室 総務係 genbun-soumu@office.osaka-u.ac.jp)

1時間 日本語

非化学系のための化学薬品取扱講習

講師：山本仁（安全衛生管理部 教授）

未定 11月中旬 時間未定

〈キーワード〉化学薬品

〈概要〉

非化学系（生物系・物理系）の研究分野で化学薬品を取り扱う教職員に対して、化学物質が危険性・有害性を有していること、管理の必要性、法規制、管理方法、危険有害性情報、法令情報の取得方法について学びます。

(問合先：安全衛生管理部推進第一グループ anzen-suisindai1@office.osaka-u.ac.jp)

50名 1時間 日本語

大阪大学薬品管理支援システム(OCCSⅢ)の利用について

講師：角井伸次（環境安全研究管理センター 准教授）

未定 11月中旬 時間未定

〈キーワード〉大阪大学薬品管理支援システム（OCCSⅢ）

〈概要〉

OCCSと関連する法令による規制についての理解を深めます。また実験系廃液と排水についての管理や処理方法について研修します。

(問合先：安全衛生管理部推進第一グループ anzen-suisindai1@office.osaka-u.ac.jp)

50名 1時間 日本語

実験系廃液・排水の取扱い

講師：角井伸次（環境安全研究管理センター 准教授）

未定 11月中旬 時間未定

〈キーワード〉実験系廃液・排水の取扱い

〈概要〉

実験系廃液の取扱いでは、実験室で生じる廃液の貯留区分や回収方法、注意点など危険な事例を含めて研修します。また実験系排水の取扱いでは、実験器具の洗浄方法・排水の規制項目や注意点、水質汚濁防止法の有害物質、管理要領・点検表、特定施設の届出などについて研修します。

(問合先：安全衛生管理部推進第一グループ anzen-suisindai1@office.osaka-u.ac.jp)

50名 1時間 日本語

高圧ガス・液体寒剤に関する安全講習

講師：竹内徹也（低温センター 助教）

未定 11月中旬 時間未定

〈キーワード〉高圧ガス・液体寒剤

〈概要〉

低温寒剤の安全な取扱い方と注意点及び低温センターの利用法について講習します。また高圧ガスや高圧ガスボンベの取扱いについて初歩的な講習を行います。

(問合先：安全衛生管理部推進第一グループ anzen-suisindai1@office.osaka-u.ac.jp)

50名 1.5時間 日本語

人権問題委員会(仮) 民族問題に関する講演

講師：孫美幸（人間科学研究科附属未来共創センター 講師）

豊中 1月29日(月) 14:00～16:00〈予定〉

〈キーワード〉人権問題、民族問題、ヘイトスピーチ

〈概要〉

民間問題に関するテーマでご講演いただく予定です。

(問合先：総務部総務課 業務運営係 soumu-soumu-jimukaikaku@office.osaka-u.ac.jp)

100名 2時間 日本語

産業科学研究所構成員のみ対象

産業科学研究所 ハラスメント防止に関する講演会

講師：ハラスメント相談室 専門相談員

吹田 2月下旬 14:00～15:30

〈キーワード〉ハラスメント防止

〈概要〉

どのような行為や言動がハラスメントに該当するかを体系的に理解し、それを防ぐ方法や心構えを、講義形式やグループディスカッション等で実例をもとに学習します。

(問合先：産業科学研究所総務課 人事係 sanken-soumu-jinji@office.osaka-u.ac.jp)

50名 1.5時間 日本語

※掲載内容は9月15日時点の情報です。最新情報は各開催部局にお問い合わせいただくか、学内ポータルサイト「マイハンダイ」(FD関係)にてご確認ください。

Program